



説教要旨 「神の権威に拠り頼もう」

ルカによる福音書 19章45節～20章8節

エルサレムに入ったイエス様は、そこで商売をしていた人々を追い出し、彼らに「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家でなければならない』。ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした」(19:46)。と言われました。それは人々から幾重にも搾取するシステム、言わば“神殿ビジネス”への非難です。これを知ったユダヤ教の指導者たちは激しく怒りイエス様を殺そうと謀りますが、イエス様の回りに集まっていた民衆を恐れて直接手を出すことができません。そこで彼らはイエス様に「我々に言いなさい。何の権威でこのようなことをしているのか。その権威を与えたのはだれか」(8:2)と問いただすのです。ユダヤ教指導者たちは、イエス様が神殿の権力者である自分たちから権威を与えられていない、つまり許可なく神殿で教えているのだから、その教えには権威はないことを、集まっていた民衆に示そうとしたのです。

ユダヤ教の指導者たちが考えているのは、自分の立場や地位をどう守るか、ということばかりです。神の権威ではなく、人間の権威を拠り所として生きる彼らは、都合の悪いことは「分からない」と言ってごまかすのです。彼らが振りかざした“権威”は民衆の反発を恐れてひっこめてしまえる程度のものにすぎず、彼らの「分からない」という言葉によってその権威は失墜したのです。

私たちがありがたがっている人間の権威というのは、肩書きばかりで中身がなかったり、全く別の利害のために出したりひっこめたりしているような、頼りにならない権威だったりはないでしょうか。権威が大好きで何かと権威に頼りっきりになってしまう。そんな私たちにイエス様は、本当に頼りになる権威を示してくださいました。それは、私たち一人一人のことを思い描きながらその名前を呼んでくださる神様に由来する権威です。この世界の全てを創り、支配しておられる神様が、その独り子を与えてくださるほどに私たちが愛してくださっているのです。この神の権威にこそ、私たちは心から頼ることが出来るのです。